

フォローアップ対象児童のテストの結果やスマイルタイムの児童の様子から算数の文章題につまずく児童が多いです。

その要因について考えてみましょう。

1

「新たな学力調査」調査研究会議で出された有識者の意見
(議事録のまとめより)

- ・ 児童に「あわせると」「全部」は「たし算言葉」「残りは」「あげる」は「ひき算言葉」というように定型的に指導していると、意味理解を伴わないため (言葉だけ暗記し、パターン化してしまっている)、児童が問題場面を適切に捉えることができないのではないか。
- ・ つまずきの要因として、問題文や言葉から場면을イメージできるかが大きく関わっているのではないか。

「言葉・語彙」

2年教科書

2

くるまが 8だい とまって います。

3だい くと、なんだいに なりますか。

8台に3台増えるから

$8+3=11$ 答え11台

花が きのうち 8こ さいて いました。

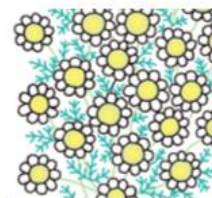
今朝は 25こに なって います。

何こ ふえましたか。

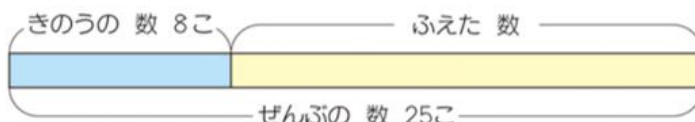
8個から何個か増えて25個になった。

$25-8=17$ 答え17個

順思考



逆思考



3

「新たな学力調査」調査研究会議で出された有識者の意見
(議事録のまとめより)

- ・言葉は暗記していても使えない。似た言葉同士の違いを自分で推論できる児童は、その後伸びていく可能性が高い。
- ・算数において5つの誤りパターンがあると言われている。

- ①文章の意味が理解できない。
- ②文章に3つ以上の数字があるとわからない。
- ③時系列ではなく、さかのぼって考える問題が捉えられない。
- ④はっきりと示されていないとわからない。
- ⑤立式できない。

この誤りパターンは、「言葉だけでは推論できないことが要因である」と言われている。

「思考力・推論力」

4 同じ意味の文なのに、児童が戸惑う問題文の例

- ①7はあと□で10。
- ②7に□をたすと10。
- ③12Lは、40Lの□倍です。
- ④40Lの□倍は、12Lです。

5

たいきさんは、あめを5個もっていました。
たいきさんは、スーパーに行って1箱3個入りの30円のガムを5箱買いました。
今、たいきさんは、ガムを何個持っていますか。

どんな間違いをしますか？



つまずき予想

数・式・図・言葉（言葉の変換）を関連付けて説明することを通して、文章題を理解できるような力を付けていく。

